

総務文教常任委員会  
所管事務調査資料

(令和4年7月19日)

(現地調査)

- ① アイヌ文化財出土品状況及び今後の取扱いについて

(事務調査)

- ① アイヌ文化財出土品状況及び今後の取扱いについて

生涯学習課社会教育グループ

## アイヌ文化財出土品状況及び今後の取り扱いについて

### 1 現状

#### ① 出土品

アイヌ文化財：厚幌ダム関連（平成 14 年度・2002 年度～平成 28 年度・2016 年度調査）  
の出土品

資料の年代：今から約 1,000 年前の擦文文化期～約 360 年前の近世アイヌ文化期の資料

資料の種類：出土品は人骨や擦文土器、常滑壺、金属製品、ガラス玉、漆器類、炭化物、骨角器、丸木舟など数千点

※画像等の詳細は別紙 1 冊子データを参照。

**主な出土資料：約 420 点以上（その他については別紙 2 を参照）**

出土遺跡名	概要	具体的な出土品	点数
上幌内モイ遺跡	擦文文化期儀礼場跡一括資料：約 1,000 年前のアイヌ民族のカムイノミの源流（道内最古級）	擦文土器・須恵器・銅鉢・鉄鏃・黒曜石転礫・被熱骨角器素材・炭化キビ塊・有孔板状土製品・棒状礫	約 120 点
上幌内モイ遺跡	擦文・アイヌ期生活道具類一式：本州交易品	土師器・鍛冶関連遺物ほか	約 30 点
上幌内モイ遺跡	擦文文化期土坑墓出土品一括資料：約 800 年前のアイヌ文化葬送儀礼の源流	擦文土器・刀子・鎌・環状鉄製品・黒曜石転礫	7 点
宇隆 1 遺跡	約 850 年前の世界遺産平泉との関係資料	常滑壺（道内唯一・国内最北端）	1 点
ニタツプナイ遺跡	約 800 年前のアムール川流域パクロフカ文化との北方交易	鉄鏃（国内唯一）・ガラス玉	2 点
上幌内 2 遺跡	アイヌ墓副葬品一括資料：約 800 年前の道内最古級かつ多彩な副葬品	コイル状装飾品（国内最多出土点数・北方大陸産）・和鏡（道内最古・京都産）・腕輪（国内 3 例目・北方大陸産）・日本刀・腰刀（鎌倉絵図と同一資料・国内唯一）・腰刀復元品・漆器類・黒曜石転礫ほか	約 50 点

オニキシベ2遺跡	アイヌ墓副葬品一括資料:約700年前のアイヌ精神文化の発展期資料	刀剣類・鐔状銅製品・ガラス玉・古銭・メノウ玉・腕輪・錫製耳飾・スタンブ文漆器・飾り矢筒・鉄鍋・棺材	約80点
厚幌1遺跡	約700年前に継続される北方交易	北方系短粒形裸性オオムギ炭化種子・星兜片・鉄鍋・鞋	約20点
上厚真遺跡	約500年前の海の幸・山の幸の送り儀礼	ホッキガイ集中貝殻(国内初)・エゾシカ獣骨・刀剣類・礫	約10点
上幌内3遺跡	アイヌ墓副葬品一括資料:約400年前のアイヌ民族の葬送儀礼の変遷	鉄鍋・鎌・銀製耳飾・ガラス玉・古銭	約30点
上幌内モイ遺跡	アイヌ墓副葬品一括資料:約400年前のアイヌ民族の葬送儀礼の変遷	蝦夷太刀(銀象嵌の鐔)・鉄鍋・刀子・漆器類・骨族(中柄)	約20点
ニタツプナイ遺跡	近世アイヌ文化期一括資料:約350年前のシャクシャイン戦争の背景	シカ送り儀礼頭骨集中(国内唯一)・銅製銚子(道内唯一)・古銭・煙管・針入れ・漆器類ほか	約50点
	上野地区発見のアイヌの丸木舟:約500年前の交易移動具	丸木舟(町指定文化財・ほぼ完形品は道内約20艘・完形品としては道内最古級)	1点

※非公開アイヌ遺骨:アイヌ民族の尊厳・厚真町の長い歴史の象徴(育てきた先人)  
遺骨安置室内アイヌ期13体(約800年~約400年前)・擦文期2体(約900年前)

## ② 経緯及び保管状況

平成23年・2011年2月 文化庁文化財部美術学芸課から特段の保存保管管理を求める通知  
平成28年・2016年まで:本郷遺跡調査整理事務所(旧かしわ保育園)温湿度管理防湿庫で保管

※保管庫から出すことができない状況。

平成28年・2016年から:軽舞遺跡調査整理事務所(旧軽舞小学校)特別収蔵庫内を整備し保管

※特別収蔵庫:文化庁基準(温湿度・防火・防犯・防災)の保管区画

※特別収蔵庫内での公開。平常時は収蔵庫内の防湿庫にて保管

平成30年・2018年3月 苫小牧駒澤大学から厚真町上野地区で発見の丸木舟返却(2019年町指定文化財)

令和2年・2020年9月 アイヌ遺骨安置棚の整備

令和3年・2021年9月 文科省アイヌ遺骨等地域返還連絡室の了解を得てアイヌ遺骨の  
地域返還

※札幌医科大学→厚真アイヌ協会→厚真町寄託保管

### ③ 活用状況

平成23年・2011年 NHK番組放送：全国放送1件・北海道放送1件

平成29年・2017年 文化庁主催の全国巡回展「発掘された日本列島展」出品

シンポジウム開催 平成23年・2011年（町民向け約50人）

平成27年・2015年（全国向け2日間：延べ200人）

教員免許状更新講習 苫小牧駒澤大学主催（厚真会場・巡見）

平成23年・2011年～令和元年・2019年 計9回（各50人）

各種専門研究誌や一般概説書等への写真掲載多数

各種専門家・大学関係者講義での厚真町出土資料画像活用

一部青少年センターでの企画展示や町民文化祭での展示

厚真中学校ふるさと学習アイヌ文化調べ

### ④ 課題

全国的な注目を浴びてきており、見学希望者（個人・団体）の増加

※年間約900人の来館中、200人程度が特別収蔵庫の見学

⇒ 学芸員2名が特別収蔵庫を案内し、その都度、防湿保管庫からの出し入れを行っている。

= 職員の時間的負担と資料取り扱いの軽微なリスク

一般及びアイヌ団体関係者や考古学関係者からの常時公開施設設置の要望

地域活性化への活用

## 2 今後の取り扱い

年度内に厚真町指定文化財として、定例教育委員会へ諮問予定

年度内に町民向けの特別公開事業を実施予定

現状の保管及び限定的公開活用の継続

将来的に新庁舎周辺整備等により展示施設が整備される場合、当該施設で常時公開活用